

## 2025 年度 経済学部 FD 活動報告

### 1. 学生対象

#### (1) 「経済学部での学び・学生生活に関するアンケート」

毎年4年次生を対象としておこなっている「経済学部での学び・学生生活に関するアンケート」（以下、「学生生活アンケート」）を2025年度も実施した。このアンケートでは、昨年度と同様、大きく「進路」、「卒業論文」、「学生生活」、「経済学部の教育」の項目について20個程度の質問項目を設定している。

ただし、2025年度は、「学生生活アンケート」を、全学実施の「学修到達度・学修行動調査」と統合して実施したため（この詳細については後にふれる）、「学生生活アンケート」の結果が明らかになるのは次年度以降に遅れることとなった。そのため、例年、3月の学部FD研修会でおこなっていた、「学生生活アンケート」の結果の集計・分析や、これらに関する意見交換を年度内に実施できず、次年度に先送りとなった。

#### (2) 「経済演習制度」

経済学部では3年間のゼミ活動が必修として義務づけられている。1年次には、経済基礎演習において担当教員の指導を受け、議論の仕方や資料検索の方法、論文・レポートの書き方などを学び、全てのゼミで春学期に「修了レポート（書評・論文）」を、秋学期に「修了レポート（論文・書評）」を提出することとなっている。

3・4年次には、経済専門演習において2年間、同一の教員から専門的な指導を受け、最終的に卒業論文の作成へと結びつけている。この2年間の内に、国内外の他大学との研究発表会やインターゼミと呼ばれる活動を行うなど対外活動に取り組むゼミナールも存在している。昨年度の学生生活アンケートでは91.9%が3年間の経済演習制度に「非常に満足」、あるいは「まあまあ満足」と回答していた。今年度は当該アンケートが学修到達度調査に統合されたため、結果は得られておらず、次年度の報告となる。

#### (3) 「能力別クラス編成」

2009年度から「経済学のための数学」で、2012年度から「ビジネス英語」と「時事英語」で能力別クラス編成を実施している。受講生の状況に応じて到達目標や教授方法に差異を持たせることで、きめ細かな指導が可能となっている。昨年度の学生生活アンケートでは、多くの学生（「経済学のための数学」に対しては92.6%、「ビジネス英語」「時事英語」に対しては83.3%）が能力別クラス編成に「非常に満足」、あるいは「まあまあ満足」と回答していた。今年度は当該アンケートが学修到達度調査に統合されたため、結果は得られておらず、次年度の報告となる。

#### (4) 「経済学部オリエンテーション」

3/31と4/2の2日間、新入生に対して学部長講話、経済学部のカリキュラム説明、1年次の教務ガイダンス、第1・第2クォーターの履修登録指導、数学テストといった内容の

新入生ガイダンスを実施した。

(5) 「経済学生論集」

指導教員から推薦された個人やグループによる論文を、『経済学生論集』（南山大学経済学会発行）としてまとめており、2025年9月に第39集が刊行された。また、論集の最後には、2024年度に提出された全ての卒業論文のタイトルが記載されている。

(6) 「学部長表彰者との懇談会」

毎年5月に、成績優秀者に対する学部長表彰式の後に、学部長と学科長が表彰を受けた学生との懇談を行っている。ここで集められた意見は教授会や学部研修会などで報告され、必要があればそれに対する改善提案がなされている。

(7) 全学の「学修到達度調査・学修行動調査」および「アセスメントテスト」への協力

全学FDの取り組みの一環として、全学実施の「アセスメントテスト」および「学修到達度調査・学修行動調査」に学部として協力している。「学修到達度調査・学修行動調査」については、「演習科目等の授業時間内で10分程度の回答時間を設け、学生は教員の指示で回答する」旨の実施への協力が大学から求められたことが、10月8日の教授会において学部長より報告された。なお、すでにふれたように、学部独自の「学生生活アンケート」も、これと統合するかたちで実施された。

全学実施の「アセスメントテスト」については、2025年度より、入学時・3年次・4年次の学生を対象に実施された。こちらは各学生が各自、回答するかたちだが、学部としてこれに協力するよう学生に呼びかけている。

## 2. 教員対象

### 経済学部研修会

経済学部では、9月5日の10:00から17:30にかけて、学部の研修会を実施している。本年度は、以下の議題について集中的に議論が交わされた。

1. 総合入試の運営について、2. ソーシャルデータサイエンスプログラム開講に伴う経済学部への負担に関する情報提供について、3. 経済学部将来構想WG中間報告について、4. 3つの公募の面談結果について、5. 『経済学部における教員評価の基準と実施体制に係る内規』に係る覚書（案）について、6. 学部長表彰に関する覚書について、7. 推薦入試合格者に対する課題の効果について、8. 「経済学部での学び・学生生活に関するアンケート（学生生活アンケート）」と全学の「卒業時アンケート」の統合について、9. 経営学部開講科目の履修について、10. 入試種別による成績追跡調査についてである。

これらのうち、8.は、経済学部FD研修会として実施された。この研修会では、懸案となっていた近年の学生を対象とするアンケートの種類の増加による教育活動への負の影響および学生のアンケート負担の軽減への対応として、今年度から経済学部独自の学生生活アンケートと、全学で実施する「卒業時アンケート」における学修到達度調査を統合する

かたちのアンケート案について意見交換した。このアンケート統合案は、その後、10月22日開催の教授会にて審議、承認された。

ただし、例年、学生生活アンケートの実施結果は年内には判明していたが、全学アンケートとの統合の結果、その結果判明が次年度以降に遅れることになったため、毎年、3月のFD研修会でおこなわれてきた学生生活アンケートの、「進路」、「卒業論文」、「学生生活」、「経済学部の教育」に関する項目の結果集計・分析や、これらに関する意見交換を年度内に実施できず、次年度に先送りすることになった。

なお、上記の2025年度の経済学部FD活動について、半期ごとに、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッションポリシー）の内容を再確認したうえで、全てのFD活動が、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに基づく活動であったことを確認した。